資料2

前回WGの振り返り

令和7年12月
政策統括官付

国土交通省

歩行空間ナビ
プロジェクト

前回WG（R7.7.7）における主なご意見

分類	主なご意見
①データ整備・更新・オープンデータ化の運用のあり方について	1)データ収集において、自治体にかかる運用の負荷をどう軽減するかは重要である。解決策の1つとして、AIの適切な活用が非常に重要と考えている。例えば、写真の撮影方法の指示や、通れそうマップのような形で様々な人が投稿したデータの集約・簡素化等、負荷を減らす手段としてAIの活用を検討すると良い。 2) 全国一律でデータ整備を実施する場合、整備主体については別途検討が必要ではないか。 3) データ整備を促進するためには、その動機づけとなる事例を提示することに重点を置いて進められると良い。 4)施設情報等の更新について、施設管理者等に自治体から連絡をしないと更新情報が得られないということがあり、その際の労力は大きな課題と感じている。 5)データの更新は、いかに鮮度が高いかが非常に重要になる。 6) 自治体が全てのデータを整備するだけでなく、民間事業者と連携して、データ利用者が利用中に気づいた部分に対し更新するというような、双方向でやり取りする形が実現できると良い。 7) データの整備範囲に関して、都市部と地方部では整備すべき範囲が異なるのではないか。

前回WG（R7.7.7）における主なご意見

分類	主なご意見
②データの利活用方策について	1） AI画像解析によるバリアフリー情報抽出では、使用する写真の画質やフォーマット等を明確に規定することで、活用に向けた価値が高まるのではないか。 2） データの二次・三次利用の検討が進むことにより、データを直接扱うことが難しい一般市民向けにも有用なサービスが創出されると考える。 3） 歩行空間ネットワークデータにハザードマップの情報を組み合わせる等、他のデータとの組み合わせを含めて検討することが、データの普及展開に役立つと考える。 4） APIのコードや利用事例を、GitHub等を通して公開することで、事業者が容易に試せる状況となり良いと考えている。 5） オープンストリートマップ等のオープンコミュニティに対し、整備データを積極的に取り込んでもらえるような仕掛けを作ることも、活用事例の創出に有効だと考える。 6） 都市空間のデータとの連携という観点で、まちづくりにおいても歩行空間に関するデータは有用であると感じており、様々なデータ形式でデータが公開されると良いのではないか。
③国による技術支援のあり方について	1） 大学のゼミ等でデータを取り上げるにあたり、学生に対し限られた時間で効率的に成果を与えるという点で、ある程度パッケージ化された教材があると有難い。 2） 伴走支援の仕組みを検討していくことが重要ではないか。
④普及展開に向けた事例拡大のための戦略について	1） ボランティアツーリズムが挙げられるが、地域に貢献している実感を与えることがポイントとなってくる。市民やボランティア向けにも、データ整備等に関するプログラムの素材を提供いただけると、データの普及展開が進むと考える。 2）鮮度の高い情報を全国から集める方法として、教育機関のカリキュラムとして組み込み、毎年実施することが確実だと考えており、データ整備を通して人助けや社会貢献に繋がるという教育面でも貢献が期待できるのではないか。